

可燃性のガスを起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労 働 者 規 模
2022	12	10 ～ 12	マンホール内（深さ約2.2m）で、被災者2人が地上から吊るされてきた工具の入ったバケツを受け取る作業をしていた。一人は中程の深さで吊るされてきたバケツの介添え、もう一人は底部で受け取りをしていたところ、マンホール内に存在した可燃性ガスに何らかの原因で着火し、マンホール内で爆発が起こった。	030110	14	1～ 9
2022	12	10 ～ 12	マンホール内（深さ約2.2m）で、被災者2人が地上から吊るされてきた工具の入ったバケツを受け取る作業をしていた。一人は中程の深さで吊るされてきたバケツの介添え、もう一人は底部で受け取りをしていたところ、マンホール内に存在した可燃性ガスに何らかの原因で着火し、マンホール内で爆発が起こった。	030110	14	1～ 9
2022	9	4 ～ 6	高速道路ジャンクション付近で被災者は社有車のトラックにて協力会社の一人親方と建設現場に向かっている際に渋滞で止まっていた。後方から来たガスボンベを積んだトラックが急ブレーキをしたことにより、ガスボンベ約120本が道路に散乱し、爆発、火災が発生した。被災者はトラックから退避している際に火傷を負い、死亡した。	030301	14	1～ 9
2021	3	16 ～ 18	事業場の1階作業場において、死亡労働者と代表者2名が何らかの作業を行っている際爆発が発生した。	11301	14	1～ 9
2020	7	8 ～	休業中の飲食店の改修工事中であった店舗内に入場した施工管理者が、何らかの原因で発生した爆発に巻き込まれ、死亡した。その爆発の	30201	14	10 ～

		10	影響のあった範囲内にあった事業場及び一般住宅などにいた複数名が被災した。			29
2019	1	6 ～ 8	化学工場工場棟新築工事現場における作業員用駐車場において、現場作業員が乗っていると思われる車両が炎上した。車両を消火したところ、炎上した車内に焼死体1体が発見された。	30209	14	1～ 9
2019	3	14 ～ 16	解体予定の個人住宅の敷地内において、午前中からガス管の閉栓作業を単独で行っていたが、自身が手掘りで掘削したと思われる掘削溝に頭を入れ、うつ伏せに倒れている状態で発見されたもの。	30203	12	1～ 9
2018	4	8 ～ 9	災害発生現場となった事業場において火災が発生し、設備に被害が生じたため、被災者は別の電気工事業者と共に災害発生現場となった事業場を訪問し、打ち合わせ後に単独で設備の点検作業を行っていたが、砂型を再利用する設備のタンク内で死亡している状態で発見されたもの。	80109	12	1～ 9
2018	10	14 ～ 15	酸化マグネシウム及び水素の製造設備（反応塔）内に原料のマグネシウム片及び着火剤の水素化マグネシウムを投入後、水蒸気を供給することで燃焼反応させていたところ、反応塔が爆発し、付近にいた労働者が死亡した。	30302	14	1～ 9
2016	11	15 ～ 16	屋外にて点検が済んだタクシーの燃料タンク（液体ブタン入り）をトラックの荷台に積み込み作業中、タンクの温度センサーが破損していたため、その場で交換しようとしてタンクから外したところ、タンク内の液体ブタンが屋内の方向に噴出し、被災者も全身に浴びた状態であった。屋内にはガスストーブが設置されていたため、焦った被災者がその状態のままガスストーブを止めに行ったところ、全身に火が回り火傷を負った。	11702	16	10 ～ 29
2015	11	9 ～ 10	住宅新築工事において、水道管等の敷設作業を請負った関係請負人の労働者が、ドラグショベル（ミニバックホー）で掘削作業中、埋まっていたガスのポリエチレン管をバケットで破損させた。労働者が破損した配管を補修しようと深さ約80cm掘った掘削箇所内に入り作業を行っていたところぐったりしたため、同僚がすぐさま掘削箇所内から引き上げ	30202	12	10 ～ 29

			たがその後酸欠により死亡したもの。			
2015	2	15 ～ 16	鉄筋のガス圧接業者の労働者がダブルキャブトラックの助手席で午後の休憩中に、トラック荷台で「ボン」及び「シュー」という音がしたので、アセチレンボンベのホースが外れたと思い、助手席から降りて荷台へ向かった時に突然爆発した。全身熱傷等で入院加療中の3月18日に、「全身熱傷による多臓器不全」で死亡した。	30201	14	10 ～ 29
2015	9	15 ～ 16	小学校の給食調理室の厨房内において、本件事業場（以下「事業場」という。）労働者3名が給食調理後の後片付け等の作業中、また、害虫駆除事業場（以下「業者」という。）の労働者が害虫駆除作業中、突然爆発が発生し、事業場の労働者3名のうち1名が死亡し、2名が負傷、業者の労働者及び当該小学校の児童4名も負傷した。	120109	14	1～ 9
2014	1	3 ～ 4	店舗内地下1階で、被災者が使用済み消臭用スプレー缶（1本：450ml）の残ガス抜きを行っている途中、煙草を吸うためライターに火を点けたところ、突然爆発し、付近に居合わせた他2名の労働者とともに被災した。尚、爆発は1回で、他2名は重症1名、軽傷1名。消臭スプレーの残ガスはLPGであり可燃性。約30本のスプレー缶が確認されたがどの程度の本数、残ガスを抜いていたかは不明。	140309	14	30 ～ 49
2014	4	14 ～ 15	プレスにて、被災者がスプレー缶等の金属くずを押しつぶし、成形していたところ、爆発し、死亡した。	11009	14	10 ～ 29
2013	11	9 ～ 10	ガス管の敷設工事の際、ドラグショベルで町道を掘削していたところ、バケットが既設のガス管に接触し破損したため、被災者がタオルで破損箇所を塞ぎ、漏えいしたLPガスを吸い込んだ。	30199	12	10 ～ 29
2013	8	14 ～ 15	防波堤の災害復旧工事現場において、津波で押し倒された既設鋼管矢板を撤去するための準備作業として、鋼管矢板の本切断時に発生する気体を抜くため、鋼管矢板の上端部に穴を開ける作業を行っていたところ、爆発が発生し被災した。	30111	14	30 ～ 49
			工場内で爆発が起きて建物が炎上し、2人の被災者は鎮火後に遺体で発			

2013	7	14 ～ 15	見された。建物の中には7人がいたが、建物から逃げる事ができた5人に怪我はなかった。建物の内部の状況から、アセトンを使用して鮭の軟骨の脱脂・脱水を行っていた部屋で爆発が発生したと推測されるが、爆発が発生した原因、発生した時の状況は不明。	11709	14	1～ 9
2013	7	14 ～ 15	工場内で爆発が起きて建物が炎上し、2人の被災者は鎮火後に遺体で見された。建物の中には7人がいたが、建物から逃げる事ができた5人に怪我はなかった。建物の内部の状況から、アセトンを使用して鮭の軟骨の脱脂・脱水を行っていた部屋で爆発が発生したと推測されるが、爆発が発生した原因、発生した時の状況は不明。	11709	14	1～ 9
2012	10	9 ～ 10	被災者は住宅外溝工事にて、電動工具を用いて既存コンクリートの切断作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルにより損傷したガス配管から漏れて滞留していたプロパンガスに電動工具のモーター若しくはコンクリート部を切断している際の火花が着火源となって引火し、全身を火傷した。	30106	11	10 ～ 29
2012	4	14 ～ 15	ボイラーCOG（コークス・オープン・ガス）ブーストブロー整備作業において、金属製の円形フタ（直径約1m、重量約50kg）を取り外していたところ、爆発音と共にフタが外れ、作業をしていた被災者に激突した。転倒した被災者は、頭部を強打し、救急搬送先の病院にて死亡が確認された。	11702	14	1～ 9
2012	12	7 ～ 8	被災者は砂利搬送作業を行うため採石船に乗り込んだ。その際、出航前の打ち合わせを行う前に珈琲を飲むため、早めに船に乗り込んでいた作業員が甲板下の空きスペースに備え付けられていたプロパンガスボンベが直結されていたガスコンロに火をつけようとしていたが、点火装置が故障していたため、柄の長い携帯用点火装置で火をつけたところ引火し、爆発した。	20202	14	1～ 9
		10	高規格トンネル建設工事現場で、坑口から約1,500m付近に設置されていたコントラファン等を点検するために複数の作業員が坑内に入場したところ、トンネル内部に充満していた可燃性ガスに引火し、爆発により			100

2012	5	～ 11	全員が死亡した。また、坑外にいた別工事の土木作業員4名も爆発の飛散物等により負傷した。なお、当該トンネル工事は休工しており、被災日は工事再開に向けた準備を行っていた。	30102	14	～ 299
2012	5	10 ～ 11	高規格トンネル建設工事現場で、坑口から約1,500m付近に設置されていたコントラファン等を点検するために複数の作業員が坑内に入場したところ、トンネル内部に充満していた可燃性ガスに引火し、爆発により全員が死亡した。また、坑外にいた別工事の土木作業員3名も爆発の飛散物等により負傷した。なお、当該トンネル工事は休工しており、被災日は工事再開に向けた準備を行っていた。	30102	14	1～ 9
2012	5	10 ～ 11	トンネル建設工事現場で、坑口から約1、501m付近に設置されていたコントラファン等を点検するために複数の作業員が坑内に入場したところ、トンネル内部に充満していた可燃性ガスに引火し、爆発により全員が死亡した。また、坑外にいた別工事の土木作業員複数名も爆発の飛散物等により負傷した。なお、トンネル工事は休工しており、当日は工事再開に向けた準備を行っていた。	80109	14	30 ～ 49
2012	5	10 ～ 11	トンネル建設工事現場で、坑口から約1、500m付近に設置されていたコントラファン等を点検するために複数の作業員が坑内に入場したところ、トンネル内部に充満していた可燃性ガスに引火し、爆発により全員が死亡した。また、坑外にいた別工事の土木作業員複数名も爆発の飛散物等により負傷した。なお、トンネル工事は休工しており、当日は工事再開に向けた準備を行っていた。	80109	14	30 ～ 49
2012	9	9 ～ 10	車両の燃料タンクであるガス容器を自動車解体業者から回収し、当該事業場内に保管していた。ガス容器は廃棄処理するものであったが、容器の処理については詳しく指示がされないまま、一般のLPG容器と混在して敷地内に置かれており、被災者はこのCNG容器を解体しようとして、ベビーサンダーで容器を切断していたところ、当該容器が破裂して被災した。	11709	15	10 ～ 29

2011	10	15	ドック内で建造していたケミカルタンカーにおいて、被災者が当該ケミカルタンカーの船底の水タンクに通じるマンホール付近で作業を行っていたところ、水タンク内で爆発。被災者は、火傷を負い、平成23年1	11501	14	10
		16	1月9日午後11時頃死亡したもの。当該水タンクは、災害発生日前日の午後7時30分頃まで有機溶剤を使用した塗装作業が行われていた。			29
2011	1	8	工場に搬入された廃棄物であるタンクの一部を非鉄金属と鉄に分割切断するため、被災者（61歳、男、平成14年入社フルタイムパート労働者）が溶解アセチレン容器及び酸素容器を用いて、ガス溶断作業中、	150102	11	50
		7	長靴から上を焼身し、死亡したもの。トーチ（切断器）自体は火口から数十センチ程度を焼いた。			99
2011	6	11	マンションの消火室で消防用設備の定期点検を行うため泡消火ポンプの	170209	14	1
		12	制御盤を操作したところ、漏えいした都市ガスに引火し爆発したもの。被災者は全身70%の火傷を負い治療を受けたが、7月2日午後3時30分に死亡した。			9
2011	3	8	平成23年3月14日午前8時ごろ、地下1階厨房にあった湯沸かし器を使い始めたところ、その湯沸かし器につながっているガスホースが発	80209	14	1
		7	火、消火しようとしたところで爆発した。爆発の衝撃により地下1階の天井（1階の床）が落下し、被災者が下敷きになった模様。当該湯沸かし器については、12日にも警報が鳴ったため、点検したが異常見つけられず。13日にも使用開始直後警報が鳴ったが、使えたので使っていたとのこと。			9
2010	8	8	都市ガス用熱量調整設備の新築工事現場において、被災者4名は、掘削	30203	16	10
		9	溝内の新設配管に防食シートを巻くための下地処理として、配管外面を計4台のLPガスバーナーで炙り、予熱、乾燥させていたところ、内1台のLPガスボンベが既設配管上から転落し、転落の際、掘削溝内の他の既設配管、または地上に落下した際の衝撃によって元弁と圧力調整器との接続金具が破断してLPガスが漏れ、使用中のバーナーが着火源となって、火災が発生し被災した。その後、治療を受けていたが、1名が			29

			4カ月半後に死亡したもの。			
2008	11	16 ～ 17	建造中の貨物運搬用船舶の船首部のカーゴホールド下部にあるバラストタンク（BT）内壁の吹き付けによる塗装作業を被災者を含め5名で行っていた。その際、タンク内で爆発が発生し、被災者が死亡、他、1名が負傷した。	11501	14	1～ 9
2008	7	1 ～ 2	道路トンネル建設工事（延長1565m、在来工法、掘削断面積5平方メートル）において、発破作業により発生したずりを坑外へ運び出す作業を行っていた際、切羽（坑口より860m付近）付近で発生した可燃性ガスが爆発した。これにより、切羽付近でカッターローダーの操作を行っていた作業員及びバッテリーロコの運転席にいた作業員2名が死亡した。	30102	14	10 ～ 29
2008	7	1 ～ 2	道路トンネル建設工事（延長1565m、在来工法、掘削断面積5平方メートル）において、発破作業により発生したずりを坑外へ運び出す作業を行っていた際、切羽（坑口より860m付近）付近で発生した可燃性ガスが爆発した。これにより、切羽付近でカッターローダーの操作を行っていた作業員及びバッテリーロコの運転席にいた作業員2名が死亡した。	30102	14	10 ～ 29
2007	1	9 ～ 10	建造中の船舶を巡視していたところ、船舶の船首（甲板）付近から煙が出ているのを発見し、消防署が火災元を捜索したところ、船首側の船底（フォアピークタンク内）で倒れていた被災者を発見した。なお、被災当日、被災者は、船底でライニングホール（鉄板をくり抜いた楕円形の穴）を拡大するため、ガス溶断作業を行っていた。	11501	16	10 ～ 29
2007	4	13 ～ 14	製鉄所構内で高炉から製鋼工場にトープード車を用いて溶銑を運搬した後、空のトープード車を後ろからディーゼル車で推進して軌道上を走行していたところ、30m離れたLPGタンクから漏れたLPガスに引火し、「ボン」という音とともに突然車両2両が燃焼した。トープード車先端で車両を運転していた被災者の衣服に着火した。	11001	14	300 ～
2007	9	9 ～ 10	溶射室において、溶射機（アセチレンガスと酸素ガスを使用）を用いて溶解させたステンレスを金属材料に溶射する作業を行っていたところ、爆発した。	11209	14	10 ～ 29

2007	10	15	建造中の鋼船のタンク内（高さ3.6m、幅3.95m、奥行き最大3.25m）における点検用はしご道（長さ1.9m、幅31cm）の	11501	14	10
		16	取り付け作業中、アーク溶接を開始したところ、タンク内で漏えいして			～
			いたガス溶断のプロパンガスが爆発し、当該作業を行っていた元請作業			29
			者1名、事業場作業員2名が火傷した。2名が後日、死亡した。			
2007	10	15	建造中の鋼船のタンク内（高さ3.6m、幅3.95m、奥行き最大3.25m）における点検用はしご道（長さ1.9m、幅31cm）の	11501	14	10
		16	取り付け作業中、アーク溶接を開始したところ、タンク内で漏えいして			～
			いたガス溶断のプロパンガスが爆発し、当該作業を行っていた元請作業			29
			者1名、事業場作業員2名が火傷した。2名が後日、死亡した。			
2007	6	14	当該事業場には、温泉施設（A棟）と別棟（B棟）が設置され、B棟	130301	14	50
		15	（地上1階、地下1階）の地上1階を従業員休憩室として使用し、地下			～
			1階には温泉を汲み上げるためのポンプ、温泉水に含まれるメタンガス			99
			を分離するためのセパレーター、温泉や浄水を貯水する貯水槽、温泉や			
			浄水をA棟に送るポンプ等が設置されていたが、地下1階にメタンガス			
			が充満し、引火、爆発したことにより、地上1階に居た作業員3名が死			
			亡した。			
2007	6	14	当該事業場には、温泉施設（A棟）と別棟（B棟）が設置され、B棟	130301	14	50
		15	（地上1階、地下1階）の地上1階を従業員休憩室として使用し、地下			～
			1階には温泉を汲み上げるためのポンプ、温泉水に含まれるメタンガス			99
			を分離するためのセパレーター、温泉や浄水を貯水する貯水槽、温泉や			
			浄水をA棟に送るポンプ等が設置されていたが、地下1階にメタンガス			
			が充満し、引火、爆発したことにより、地上1階に居た作業員3名が死			
			亡した。			
2007	6	14	当該事業場には、温泉施設（A棟）と別棟（B棟）が設置され、B棟	130301	14	50
		15	（地上1階、地下1階）の地上1階を従業員休憩室として使用し、地下			～
			1階には温泉を汲み上げるためのポンプ、温泉水に含まれるメタンガス			99
			を分離するためのセパレーター、温泉や浄水を貯水する貯水槽、温泉や			
			浄水をA棟に送るポンプ等が設置されていたが、地下1階にメタンガス			
			が充満し、引火、爆発したことにより、地上1階に居た作業員3名が死			
			亡した。			

		15	浄水をA棟に送るポンプ等が設置されていたが、地下1階にメタンガスが充満し、引火、爆発したことにより、地上1階に居た作業員3名が死亡した。			99
2007	7	15 ～ 16	水漏れの修理を終えた産業廃棄物焼却炉内において、試運転のため廃棄物である液状のアスファルト（ドラム缶入り）を燃焼させようと、ドラム缶の天板をアセチレンガス溶接機で溶断中にドラム缶が爆発し、溶断作業中の被災者が全身火傷で死亡した。	30309	14	1～ 9
2005	6	10 ～ 11	廃液貯蔵タンクの天板にできたピンホールを補修するため、タンク上部でアーク溶接によりあて板を溶接中、タンクが爆発した。	30309	14	10 ～ 29
2005	6	10 ～ 11	沈没した貨物船の撤去作業のため、海中に潜ってアーク溶断により船体を切り離し、海上のクレーンで引き上げる作業中、ガス爆発が発生した。	30199	14	1～ 9
2004	10	11 ～ 12	アルミ鋳造工場でアルミダイカストマシンの型替え作業を行っていたところ、突然当該マシン付近より出火した。	11102	16	30 ～ 49
2004	5	9 ～ 10	資源リサイクルセンター内に設置されているゴミ焼却施設の一部となる廃熱ボイラの性能検査を受けるための清掃および点検作業中、開放された気水ドラムの中でスプレー式の染色浸透探傷剤で溶接個所のカラーチェックを行った後に、缶内で爆発が発生したため、気水ドラム外側マンホール付近にいた被災者が爆風で吹き飛ばされた。	30302	14	1～ 9
2004	9	14 ～ 15	5階建ビルの改修工事中、地下1階部分において天井材、配管等を撤去していたところ、都市ガスが漏れガス爆発が発生し、1階部分にて作業していた労働者2名が爆風により現場外の道路まで吹き飛ばされ、地下にて作業していた下請の役員1名が爆発によりがれきの下に埋まった。	30209	14	10 ～ 29
2004	9	14 ～	5階建ビルの改修工事中、地下1階部分において天井材、配管等を撤去していたところ、都市ガスが漏れガス爆発が発生し、1階部分にて作業していた労働者2名が爆風により現場外の道路まで吹き飛ばされ、地下に	30209	14	10 ～

		15	て作業していた下請の役員1名が爆発によりがれきの下に埋まった。			29
2004	7	8 ～ 9	博物館において、文書収蔵室内の害虫駆除作業を行うため同室内でくん煙剤を炊いたところ、突然爆発し、文書収蔵室と学芸員室との間仕切りが爆風で吹き飛び、被災者が同壁と学芸員室の壁に挟まれ死亡した。	120109	14	1～ 9
2003	5	2 ～ 3	出港準備のため、港に係留されていた漁船に乗船し船長がブリッジでエンジンを起動させたところ、船体内に滞留していたLPガスに火花が引火し、爆発が生じ船体上部にあった船室とブリッジが全壊した。	70201	14	1～ 9
2003	3	14 ～ 15	コンクリート工場内で、鋼鉄製のコンクリートパイル型枠フランジ部に固化・付着していた油滓をアセチレンガス溶接機を用いて加熱・溶解し、金属ヘラで除去する作業を行っていたところ、何らかの原因でガス溶接機の炎が作業者の作業服背面に引火し、背部・胸部・両手等に火傷を負った。	11209	16	1～ 9
2002	6	11 ～ 12	アセチレンガス及び酸素を用いて鋼板を溶断するため吹管（バーナー）に点火したところ、漏れていたアセチレンガスに引火し爆発した。	11209	14	1～ 9
2002	2	12 ～ 13	都市ガスの供給管の撤去作業で、供給管の既設穴より2種類の袋を入れて空気を充填して膨張させて都市ガスを遮断し、本管と供給管のつなぎ目のパッキン及び供給管をはずしたところ、都市ガスが本管より流出し窒息死した。	30199	12	10 ～ 29
2002	2	12 ～ 13	都市ガスの供給管の撤去作業で、供給管の既設穴より2種類の袋を入れて空気を充填して膨張させて都市ガスを遮断し、本管と供給管のつなぎ目のパッキン及び供給管をはずしたところ、都市ガスが本管より流出し窒息死した。	30199	12	10 ～ 29
2001	4	9 ～ 10	プレス機によりアルミ鍋等のプレス作業中に、プレスのピット部より爆発が起こり、火傷を負った。なお、アルミ鍋のプレスの前にスプレー缶のプレスを行っていた。	11101	14	10 ～ 29
		11				

2001	6	～ 12	ガスボンベの検査場でボンベのバルブを取り外す作業中に、何らかの原因でガスに引火し火災が発生し、1名が死亡し2名が火傷を負った。	11602	16	1～ 9
2001	6	～ 14	13 ガス(プロパン)管家庭へ引き込むため、深さ約1mの穴の中で主管と引き込み管とを接続していたところ、主管からガスが噴き出したため酸欠となった。	80204	12	10 ～ 29
2001	5	～ 15	14 甲板に開けられていた穴を半自動アーク溶接機を使用して閉塞していたときに、溶接機の火花が船倉内に滞留していた引火性ガスに引火して、爆発した。	11501	14	10 ～ 29
2000	10	～ 11	10 新造船の船尾下部に溜まった油や水の抜き取り作業を行っていた2名が、LPGタンクに封入した不活性ガスの一部がビルジタンクに流れ込んでいたため一酸化炭素中毒になり1名が死亡、1名が休業となった。	11501	12	10 ～ 29
2000	5	9 ～ 10	前日に浄化槽の調整槽(深さ約4.5m)の水位を計測した器具が槽内に引っかかり外れなくなっていたため、槽内に脚立を立てて下りていたときに、体に異常を感じて戻ろうとしたが、そのまま深さ約1.3mの汚水が入っていた槽内に転落した。	150101	12	10 ～ 29
1999	5	～ 15	14 建物の6階でコンピュータのメンテナンス作業を行っていたときに、隣接した道路上でガス引き込み管取り替え工事中に発生した火災が、建物に及んだため、逃げ遅れて焼死した。	120102	16	10 ～ 29
1999	1	8 ～ 9	終末処理施設「砂ろ過棟施設」の上部のスラブ上で、つなぎ目の目地部が氷結していたのでプロパンバーナーにより融かす作業を始めたときに、足元下部が爆発し、コンクリート片と共に約4～5m跳ね飛ばされ、コンクリート片の下敷となった。	30201	14	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_02.html